



9月は認知症月間

市内4施設を認知症カラーに染める オレンジライトアップ

9/1(月)～9/21(日) ※荒天時は中止

- ・川之江城(川之江町)
- ・書道パフォーマンス之聖地モニュメント(中之庄町)
- ・子ども若者発達支援センター(下柏町)
- ・ガントリークレーン(三島金子) ※9/15(月・祝)～

認知症にやさしい地域づくりを紹介

認知症パネル展

0
FREE

市役所市民交流棟 9/1(月)～19(金)

川之江図書館 9/2(火)～30(火)

三島図書館 9/2(火)～26(金)

土居図書館 9/2(火)～26(金)

※休館日を除く開館時間中

問い合わせ先

長寿支援課 地域包括支援センター 28-6147

翌年の夏、夫が激しい頭痛を訴えて、病院に救急搬送されました。医師からは「軽度

認知症と診断されて



次子さんが書きつづった5冊の日記

それが突然やってきた
私が、夫の異変に初めて気付いたのは、今から5年前の秋、夫が72歳の時でした。寡黙で優しく、夫が、テレビを見ながら突然怒り出したのです。「これは間違っている。自分が正しい」と。夫の様子に違和感を覚えた私は、その日から日記をつけ始めました。日記は夫が旅立つまでの約4年間、ほとんど毎日書き続けました。読み返すと、夫と過ごした時間が鮮明に思い出されます。

ただただ幸せ

今年1月、夫はがんで亡くなりました。夫と過ごした時間を一言で表すならば、「ただただ幸せ」です。もちろん大変なこともたくさんありました。それでも、心からそう言えます。

私たちが夫婦は、多くの方に支えていただきました。これからは、私が地域の力になっていきたいです。

認知症のこと相談ください

長寿支援課
地域包括支援センター 28-6147

認知症になっても安心して暮らせるようお手伝いします。

※19ページに関連記事



お揃いのポロシャツで当事者の集まりに参加する田森夫妻



こども食堂に参加する田森夫妻。夫の秀夫さんは子どもが大好きだった

不便だけど、

不幸じゃない

田森次子さん
(三島金子)

1953年 高知市生まれ
夫の秀夫さん(故)が認知症と診断される。現在、夫の介護の経験を活かし、当事者の会でスタッフをサポートする

鎌倉裕基さん
(川之江町)

1986年 川之江町生まれ
居宅介護支援事業所の管理者兼ケアマネージャー業務とボランティアの両面で認知症ケアに携わる

認知症カフェ
ふくふくカフェ in かあねえ代表

「認知症」に
どんなイメージを持っていますか？

私の認知症観

認知症になっても、できることや望む暮らしがあります。「支えられる存在」から「共に歩む存在」へ。そんな、新しい認知症観が広がり始めています。

今回は、認知症カフェを主催する鎌倉さんと、認知症の夫と歩んだ田森さんから、それぞれの「認知症観」をお聞きました。

みなさんは、どんな認知症観を持っていますか？

夜の海の漂流者

私が初めて認知症の方のケアに携ったのは、就職先の特別養護老人ホームでした。人と関わるのが好きで、大学で福祉を学びましたが、職場の期待に応えようとするあまり、いつしか「どれだけ速く介護をこなせるか」ばかりを考えるようになっていました。

その頃、私が認知症の方に抱いていたイメージは、「夜の海をさまよう漂流者」でした。周りは真っ暗で、「幸せ」という言葉からは程遠い存在でした。もしかしたら、当時の自分を重ねていたのかもしれない。

富山型デイサービス

「やりたいこと」と「やっていること」のギャップに耐えられなくなった私は、退職して富山県に行きました。そこには、子ども、高齢者、障がい者、そして認知症の方が共に支え合う、「富山型デイサービス」がありました。

私が代表を務める認知症カフェも、認知症の方だけでなく

今を生きる冒険者

富山型デイサービス

利用者を限定しない柔軟なサービスが特徴。お年寄りや小さな子どもを見守り、障がいのある人がスタッフの手伝いをするなど、「当たり前」の生活が注目されている。

く、子どもから大人までさまざまな人が集います。毎回高齢者と同じくらいの人数が参加し、劇やカラオケなどをして、にぎやかに過ごしています。



認知症カフェに参加する子どもたち。この日は、認知症がテーマの寸劇を披露



ボランティアによる音楽ライブ。懐かしい曲に、誰もが思わず口ずさむ



鎌倉さんが主催する認知症カフェ。毎回多くの人が参加する ※19ページに関連記事